



学校だより No.24

白 樺

令和3年9月24日（金）
泉崎村立泉崎中学校

発行責任者 校長 桑原 透

泉崎中スローガン

- 1 明るく元気なあいさつ
- 2 健康・安全
- 3 「自他共栄」
- 4 「一歩改革」

目指す学校像

- 1 安全で安心して生活できる学校
- 2 生徒・教師が楽しめて「今日も来てよかったなあ」と思える学校
- 3 生徒が主体となって活動し、明るく活気のある学校
- 4 学校・保護者・地域が連携し、共に成長していく学校
- 5 保護者や地域から信頼される学校

全国学力・学習状況調査結果について（本校の結果）

	国語正答率	数学正答率
全国平均	64.6	57.2
県平均	65	55
本校	全国平均並	全国平均並

5月に中学3年生が実施した、全国学力・学習状況調査についての結果をお知らせします。各生徒への個票は、すでにお子様に配付済みですのでご確認ください。

福島県全体の結果については、福島県教育庁義務教育課WEBサイトからPDFでダウンロードいただけます。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a> または [福島県教育庁義務教育課](#)で検索

令和3年度 全国学力学習状況調査の結果から 国語

傾向と課題

- 領域別においては、全領域で全国平均を下回っており、「読むこと」が全国平均を大きく下回っている。
- 観点別においては、全観点で全国平均を下回っており、「関心・意欲・態度」「読む能力」が全国平均を大きく下回っている。
- 問題形式別で見ると、「短答式」「記述式」は全国平均を大きく下回っている。
- 「記述式」の無回答が、全国平均よりも高く、考えながら書くことに課題が見られる。

力を入れた学習

- 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして自分の考えをまとめること
- 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすくわかりやすい文章にすること
- 書いた文章を互いに読み合い、意見を述べたり、助言をしたりして、自分の考えを広げること
- 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと
- 話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること
- 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと

令和3年度 全国学力学習状況調査の結果から 数学

傾向と課題

- 領域別において「資料の活用」が全国平均を大きく上回っている。
「図形」が全国平均を大きく下回っている。
- 観点別において「数学的な技能」の観点の平均正答率は、全国平均を上回っている。
- 問題形式別で見ると、「選択式」は、全国平均を上回っている。
- 「短答式」「記述式」の無回答が、全国平均よりも高く、表現や説明の問題に課題が見られる。

力を入れた学習

- 具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、関数関係を見だし、表現すること
- 表やグラフなどからデータの傾向を読み取り、それを基に判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること
- 図形の性質が成り立つための根拠を明らかにするとともに、それを正しく記述すること
- 図形で用いる記号の意味を正しく理解し、それを適切に用いて位置関係を表現すること
- 観察や操作、実験を通して平面図形の性質を見だし、それが正しいことを既習の性質を用いて確かめ、説明すること

生徒質問紙より抜粋 ※()内の数字は質問紙の番号のままです。

1 自分自身に関すること

- (1) 朝食摂取率は80%が毎日食べていると答えている。全く食べていない生徒が3.3% (2人)
 - (6) 自分には良いところがあると答えている生徒が、全国・県より低い結果となっている。
 - (7) 将来の夢や目標を持っている生徒は30%に留まっている。
 - (8) 「自分でやると決めたことは最後までやる」と(9)「難しい事でも失敗を恐れなくて挑戦する」は全国・県平均には達していないが、根気強さや挑戦心がある生徒は多い。
 - (10) 進んで人を助けるという意識を持っている生徒が多いが、全国・県平均よりは低い。
 - (11) どんな理由であれ、いじめが良くないと思っている生徒は多いが、どちらかと言えば当てはまらないと答えている生徒が10%いる。
 - (12) 人の役に立つ人間になりたいと考えている生徒は65%である。
- 人の役に立ったり、助け合ったりする精神が高いとは言えない。(6)の自分には良いところがある(自己肯定感)との関連もあるのではと考える。「自他共栄」の精神や、将来の目標意識を高める必要性を感じる。

2 学校生活全般に関すること(授業・学級活動以外)

- (13) 学校に行くのは楽しいと答えている生徒が、全国・県平均より低かった。
 - (15) (16) 友達と協力することに楽しみを感じている生徒は多い。しかし、自分と違う意見について考える事への楽しさを感じている生徒が少ない。
- 意見の食い違いを受け入れたりしながら、考えを発展させることを指導する必要がある。

3 授業や学級に関すること

- (32) (33) 自主的に課題解決に取り組んだり、資料や文章などを工夫して発表したりする経験が少ない。
 - (36) (37) 話し合い活動では、友達の話最後まで聞くことはできているが、自分の考えを深めたり、広げたりすることが苦手である。
 - (39) 総合的な学習では調べたことを発表した経験が少ない。
 - (40) 学級での話し合い活動が、よりよい学級づくりに活かされていると感じている生徒は多い。
- 人の話をしっかり聞くことができているが、話し合い活動で意見を膨らませたり、自分の意見を発表したりする力が弱いのではないかと考える。

4 家庭生活に関すること

- (5) 平日のゲーム等をしている時間が、全国・県平均より多い。
 - (18) 平日の勉強時間は3時間以上の人0人、1時間以下が約40%で、全国・県平均より勉強時間が少ない傾向にある。
 - (19) 休日の勉強時間も全国・県平均に比べて少ない傾向にある。
 - (21) 平日の読書時間は、2時間以上が少なく、読書量が多いとは言えないが、10分以下が少ないことは、朝読書を行っている結果と考えられる。
- 全体的には勉強や読書の時間が少なく、ゲーム等の時間が長い傾向にある。